

# 感染症

## 相双地域感染症発生動向調査週報(2026年第15週)

(令和8年4月6日～令和8年4月12日)

令和8年4月16日

定点報告(上段:定点当たり/下段:報告数)、全数報告(報告数)

区分	疾病名	2026年					2025年 合計	2024年 合計
		12週	13週	14週	15週	合計		
定点報告	インフルエンザ	2.67 8	1.33 4	1.33 4	0.67 2	— 576	— 2,558	— 1,616
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	1.00 3	2.00 6	0.33 1	1.33 4	— 105	— 1,139	— 3,622
	RSウイルス感染症	0.50 1	2.00 4	0.50 1	— 0	— 21	— 156	— 309
	咽頭結膜熱	— 0	— 0	— 0	— 0	— 2	— 78	— 337
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.50 5	3.00 6	1.50 3	2.50 5	— 58	— 243	— 657
	感染性胃腸炎	— 0	2.00 4	1.50 3	— 0	— 100	— 430	— 610
	水痘	— 0	— 0	— 0	— 0	— 4	— 10	— 6
	手足口病	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 15	— 952
	伝染性紅斑	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 141	— 0
	突発性発しん	0.50 1	0.50 1	0.50 1	0.50 1	— 11	— 59	— 182
	ヘルパンギーナ	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 4	— 19
	流行性耳下腺炎	— 0	— 0	— 0	— 0	— 1	— 10	— 13
	急性出血性結膜炎	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0
	流行性角結膜炎	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 2	— 9
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	— 0	— 0	— 0	— 0	— 2	— 16	— 1
	クラミジア肺炎	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0
	細菌性髄膜炎	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0
	マイコプラズマ肺炎	2.00 2	1.00 1	— 0	— 0	— 10	— 42	— 16
	無菌性髄膜炎	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0
	インフルエンザ入院	— 0	— 0	— 0	— 0	— 7	— 39	— 19
新型コロナウイルス感染症(入院)	1.00 1	1.00 1	1.00 1	— 0	— 20	— 56	— 120	
急性呼吸器感染症(ARI)	40.00 120	43.33 130	29.33 88	39.33 118	— 2,953	— 8849	— —	
全数報告	百日咳	0	0	2	0	7	141	0

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

インフルエンザ	相双地域及び県(県内総数)は前週と比較して減少しました。 本県における第15週の定点当たり報告数は1.56と、9週連続で減少しました。
新型コロナウイルス感染症	相双地域及び県(県内総数)は前週と比較して増加しました。 直近2年間の同時期より低い水準にあるものの、他疾患と同様、基本的な感染対策が重要です。
梅毒	本県で4例届出がありました。 昨年と同様、郡山市からの報告数が多い状況です。梅毒は梅毒トレポネーマに感染することで生じる全身性の疾患で、感染後、2～3週間後に皮膚症状やリンパ節炎が見られ、未治療のまま放置すると中枢神経症状等、重篤な症状が生じます。また、妊婦が感染すると、胎児に先天性梅毒を生じます。性行為によって感染が広がることから、予防には、パートナー同士の感染有無の確認や、不特定多数との性行為を避ける等の対策が重要です。
結核	本県で2例届出がありました。 昨年と同様、高齢者や外国出生者が多くを占めている状況です。外国人労働者を多く雇用する事業所や高齢施設は、既存の感染対策に加え、結核対策としての定期健康診断を実施しましょう。
麻しん	県内での発生は確認されていませんが、国内の感染者数が増加しています。 麻しん(はしか)は麻しんウイルスによる感染症で、感染すると咳、鼻水、高熱、発しんが生じます。空気感染が主な感染経路であり、極めて感染力が強く、免疫を持たない人が感染者に接するとほぼ全員が感染します。手指消毒やマスクのみでは予防することができません。最も有効な予防法は、ワクチンの接種です。海外からの輸入事例がほとんどであることから、特に海外へ出張・旅行に行く方は、ワクチン接種(2回)の有無を確認し、感染に十分注意しましょう。

新学期や引っ越しなどの人の移動、歓迎会による会食の機会等が増える時期です。体調管理に留意することや、咳エチケットや手洗いの励行、場面に合ったマスクの着用など、基本的な感染対策をお願いします。

(参考・引用)福島県感染症発生動向調査、感染症週報、2026年第15号